

乗鞍岳の火山活動解説資料（平成 29 年 11 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図 1）

乗鞍高原監視カメラ（乗鞍岳の東北東約 7 km）による観測では、山頂部に噴気は認められません。

・ 地震活動（図 2－①、図 3）

火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。
火山性微動は観測されていません。

・ 地殻変動の状況（図 2－②～④、図 4）

GNSS¹⁾ 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

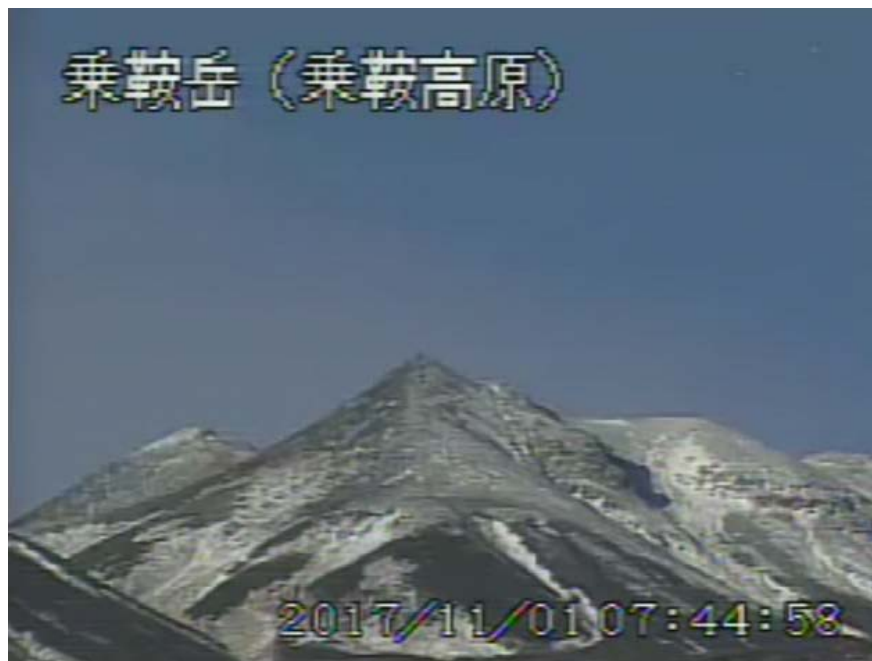


図 1 乗鞍岳 山頂部の状況
(11月 1 日 乗鞍高原監視カメラによる)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（平成 29 年 12 月分）は平成 30 年 1 月 12 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

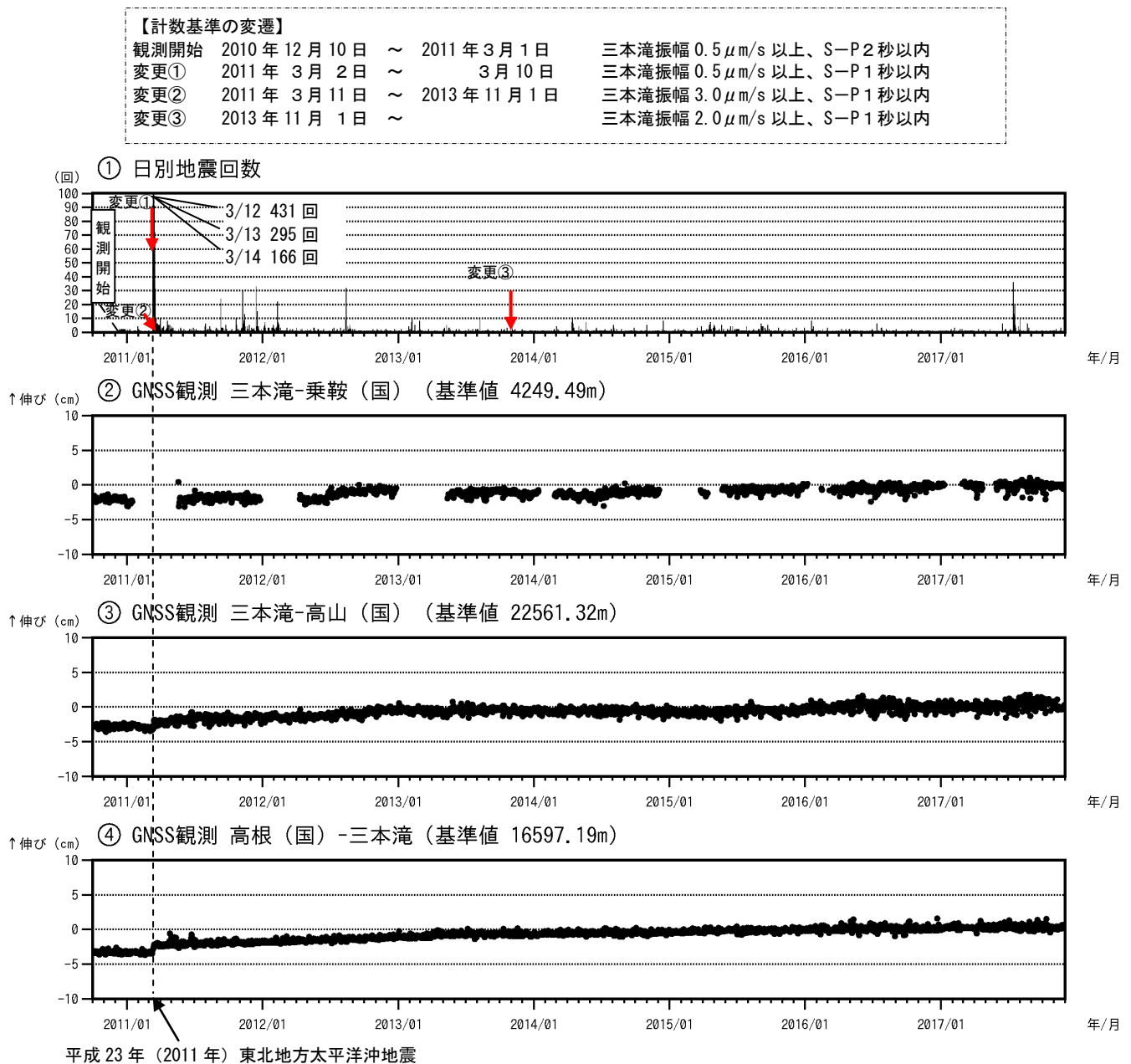


図 2 乗鞍岳 火山活動経過図

- ① 乗鞍岳周辺の日別地震回数（2010 年 12 月 10 日～2017 年 11 月 30 日）
- ②～④ GNSS 連続観測による基線長変化（2010 年 10 月 1 日～2017 年 11 月 30 日）（国）：国土地理院
- ・③④の基線には、『平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震』に伴うステップ状の変化がみられます。
 - ・②～④は図 4 の GNSS 基線②～④に対応しています。
 - ・②のグラフの空白部分は欠測を示しています。
 - ・2016 年 1 月以降のデータについては、解析方法を変更しています。

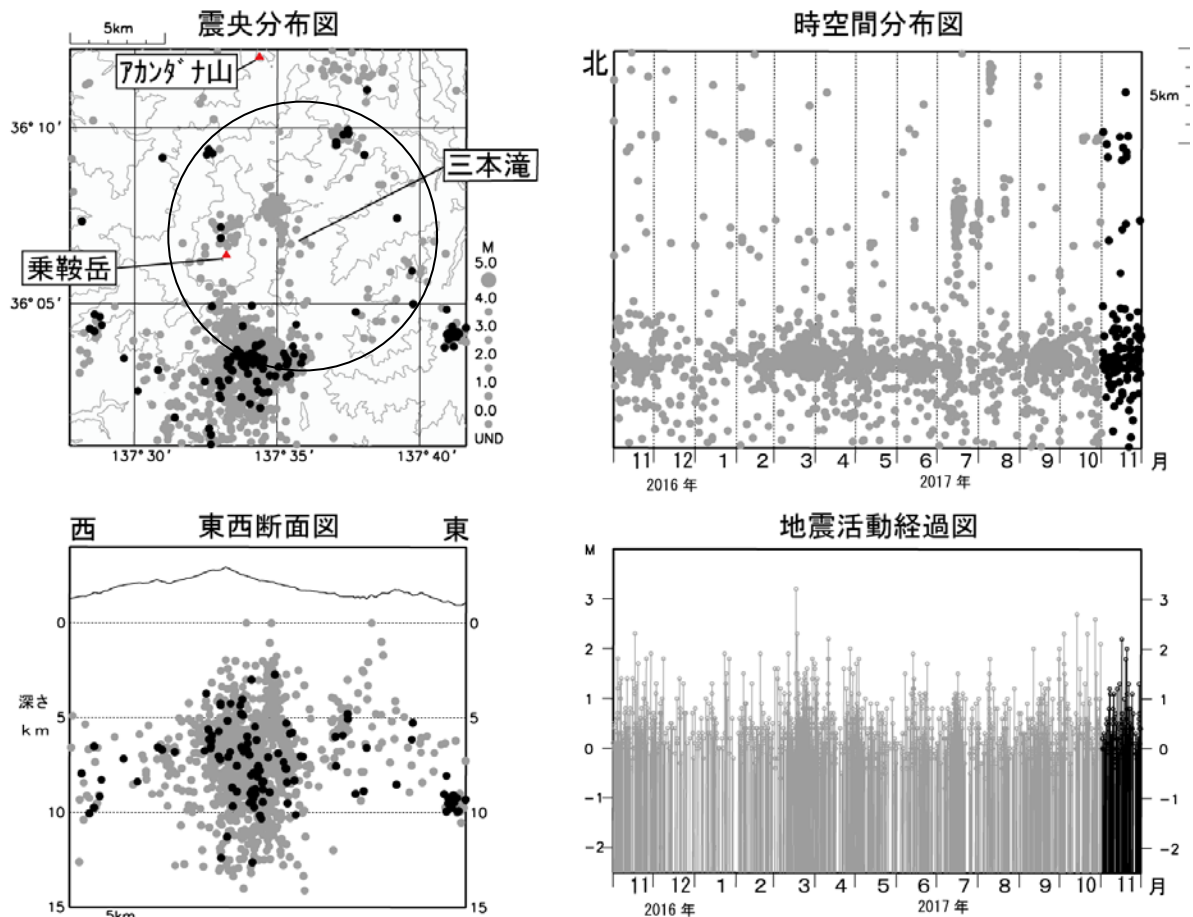


図3 乗鞍岳 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動(2016年11月1日～2017年11月30日)

● : 2016年11月1日～2017年10月31日 ● : 2017年11月1日～11月30日

- ・震央分布図中の円は図2-①の計数対象地震（三本滝でS-P時間1秒以内）のおよその範囲を示しています。
- ・広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。
- ・M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
- ・図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

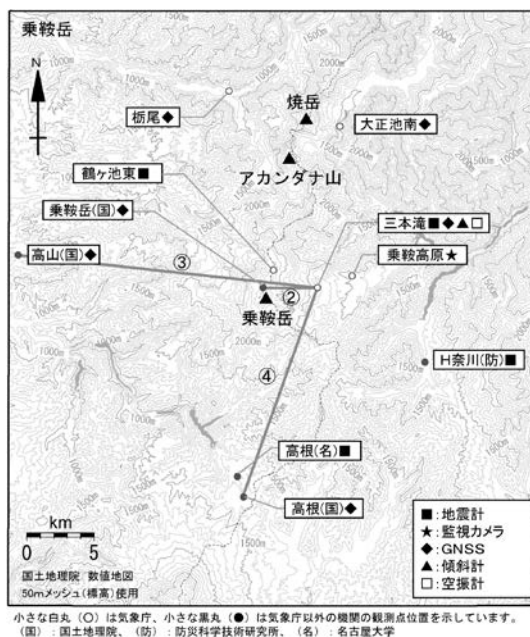


図4 乗鞍岳 観測点配置図

GNSS 基線②～④は図2の②～④に対応しています。